

科目名	メディア・ジャーナリズム 実践演習 I	担当教員	佐々木 伸
科目属性	専門科目群E	単位数	2単位(面接0.5単位)

【授業概要】

ジャーナリズムの基本的な姿勢と取材・執筆の基礎を学ぶ。ジャーナリズムの基本は世の中の事象について、独立・中立的な立場を維持し、あくまでも公正を保ち、真実追求の報道をすることである。とりわけ、権力の乱用や不正を監視する役割は高まることはあるにせよ、弱まることはない。今ほど、その社会的な役割と責任が問われている時はない。

同時に、インターネットの飛躍的な普及により、活字からパソコンによる通信、さらにはソーシャルメディアの流通、拡散により、メディアを取り巻く環境が激変、ジャーナリズムのあり方があらためて問い直されている。

本講では、政治、社会、経済、国際、スポーツ、文化、科学など様々な分野での実際の取材と執筆の方法を学び、日々の出来事を分析、検証しつつ、ジャーナリズムの果たすべき役割と責任がどのようなものなのかを探求する。ジャーナリズム・メディアが共生社会を形成する上で、どのような手助けができるのか、またしなければならないのかについても考察する。

【授業の到達目標】

- 1、不確実性漂う今の時代を的確に分析、把握しジャーナリズム・メディアの果たすべき役割と責任、その可能性を探求する。
- 2、ジャーナリズム・メディアの原則と倫理について理解する。
- 3、取材・執筆方法の基本、文章論を学び、簡単な一般記事を作成できるようにする。
- 4、政治、社会、経済、国際、スポーツなど様々な分野の取材・報道について学ぶ。
- 5、インターネット時代のジャーナリズム・メディアの背景と問題点を考察し、フェイクニュースの見分け方などを身に着ける。

【授業計画】

授業計画としては以下の15回におよぶ内容となるが、教科書「実践ジャーナリズム養成講座」、レジュメに基づいて学習し、その総括的なスクーリングを行い、突っ込んだ討議を行う。そしてスクーリングで討議された内容を踏まえながら、第2回スクーリング2週間前までにレポートを提出し、2回のスクーリング終了後、最後に科目修得試験に臨むこと。

その上で、下記のような割合で総合評価を下すという形にしたい。

第1回：ポスト・トゥルースの時代

第2回：激変したジャーナリズム・メディア環境、取材の基本—現場主義

第3回：執筆の基本—まずは見出しから

第4回：ジャーナリズム実践 政治報道

第5回：同上 事件報道（疑獄、汚職）

第6回：同上 事故報道（大震災）

第7回：同上	経済・金融報道
第8回：同上	国際報道
第9回：同上	写真と映像報道—百聞は一見に如かず
第10回：解説、サイド、企画、コラム、社説の書き方	
第11回：実名報道と匿名報道	
第12回：情報源とその秘匿	
第13回：人権とメディアスクラム	
第14回：SNSとフェイクニュース	
第15回：日米の報道比較—取材の違いと記者クラブ問題	
【評価方法】	
評価は、スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、「科目修得試験」（50%）の割合で行います。	
【教科書】	
「ジャーナリズムの倫理と規範」（新聞通信調査会）	
「実践ジャーナリズム養成講座」（花田達朗、ニューズラボ研究会編著）	
「レジュメ・ジャーナリズムの役割特論」（佐々木伸）	
【参考図書】	
「メディアと政治」（芹川洋一、蒲島郁夫 有斐閣）	
「ジャーナリズムと権力」（大石裕編 世界思想社）	